

令和4年度 鹿児島県私立幼稚園協会 教職員研修大会

第5分科会 子ども理解から子どもの育ちを 考えた保育実践

楽しく語れば、保育がわかる！

認定こども園 せんだい幼稚園

1

園の概要

鹿児島市から車で約1時間・川内駅から車で5分



認定こども園 せんだい幼稚園

2

園の概要



●園児数（実員） ※表の()はうち新2号の人数

	クラス数	1号	2号	3号	小計
0歳	1			8	8
1歳	1			15	15
2歳	2	19		19	38
3歳	3	57(22)	6		63
4歳	3	64(32)	4		68
5歳	3	58(35)	2		60
合計	13	198	12	42	252

●保育者数

	正職員	非常勤	小計
0～2歳	13	7	20
3～5歳	23	11	34
合計	36	18	54

認定こども園 せんだい幼稚園

3

研究・研修の視点

- 教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう**幼児一人一人の行動の理解**と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない（幼稚園教育要領）
- 教師の子ども理解**に基づいて、**指導計画を作成し、具体的なねらいや内容、配慮事項が適切であったかどうかを評価し、改善していくことが重要。**
- 子ども理解や指導についての考え方を深めるために、**話し合い、多角的に評価することが重要であり、子ども理解を深める場の充実が求められる。**

認定こども園 せんだい幼稚園

4

研究計画

- 令和4年度
「保育カンファレンス」を中心とする月案会議の改革。
それに伴う保育記録の改善
- 令和5年度
「保育カンファレンス」の内容を園全体で共有する体制の構築

※保育カンファレンス：子どもの姿や育ちについて話し合う場

認定こども園 せんだい幼稚園

5

研究・研修テーマの捉え方（1）

月案会議（学年ごと：クラス担任のみ）



月案様式（学年ごと）



＜現状と課題＞

- 月案会議はクラス担任だけで行い、補助職員や預かり保育担当者は参加していない。
- 補助職員や預かり保育担当者まで翌月のねらいや手立てなどの細部までを共有できていない。

認定こども園 せんだい幼稚園

6

研究・研修テーマの捉え方（２）

写真ポートフォリオ



ドキュメンテーション



＜現状と課題＞

- ドキュメンテーションや写真ポートフォリオなど、個人やクラスとしての育ちについての記録を行い、保護者に配布・公開している。
- 記録を活用した子ども理解の共有や次の手立ての検討までは至っていない。

認定こども園 せんだい幼稚園

7

研究・研修テーマの捉え方（３）

●月案会議



子どもに関わる保育者全員で子ども理解を深め、次の手立てやねらいを立案・共有したい

●ドキュメンテーション・写真ポートフォリオ



保育記録を
・子ども理解の共有
・次の手立ての検討
として活用したい

●保育カンファレンス（月案会議を兼ねる）



・保育者全員での子ども理解の共有
・保育者全員での次の手立てやねらいの検討
・作成した記録を活用した育ちの共有と月案立案

認定こども園 せんだい幼稚園

8

保育カンファレンスの進め方

保育者間の対話を通して園全体で子ども理解を深め、次の保育への手かかりを検討する

対話のルール	対話の内容についてのルール
- 正解を求めようとしないうこと - ほんねで話し合う - 園長や先輩が若い人を導くという形にならないようにする - 話し合いにおいて相手を批判したり、論争しようとしないう - それぞれの成長を支え合い育ちあうこと （長上史朗の提唱した保育カンファレンスの条件より）	- 保育の方法ではなく、<u>子どもの育ちや姿について話し合う</u> - 気になるところではなく、<u>その子の何が育ちつつあるかに目を向ける</u> - クラス全員の子どもたちの名前を挙げて話をするようにする （佐藤千らが提唱した授業カンファレンスの手法より）

認定こども園 せんだい幼稚園

9

保育カンファレンスの方法



保育カンファレンス

- 実施頻度：年少～年長：それぞれの学年で毎月1回
- 時間：1号認定の子の降園後（平日：14:30以降）1クラス1時間を目標に。
- 実施方法：
 - ・その学年に携わっている保育者全員が参加（担任・預かり保育担当者・補助保育者など全員）
 - ・ファシリテーター1人
 - ・記録者2人（エビソード記録者と名前記録者）

認定こども園 せんだい幼稚園

10

保育カンファレンスの方法



ファシリテーターとは？

- ・参加者の話し合いを促進し、会議がスムーズに進むように支援する人

ファシリテーターの役割

- ・何を言っても、何を聞いてもいい雰囲気作り
- ・自分の考えを一方向的に押し付けたり、否定的なことを言ったりしない雰囲気作り
- ・それぞれの発言を評価しない
- ・カンファレンスのタイムキープ

認定こども園 せんだい幼稚園

11

保育カンファレンスで使用する準備物・道具

- 報告者（担任）の事前準備物

写真ポートフォリオ・ドキュメンテーションや写真を縮小印刷し、切り取ったもの

※A4用紙に4枚分割で印刷
切り取って使用



認定こども園 せんだい幼稚園

12

保育カンファレンスで使用する準備物・道具

●保育カンファレンスで使用する道具

①保育カンファレンスの記録用紙

子どもたちの遊びや姿（そこから読み取る発見）	別の手立てや取り組み

②名前シール

③子どもの育ちを捉える視点シール

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

5領域

3つの資質・能力

マーガレット・カーの学びの構えの5領域

認定こども園 ぽんたい幼稚園

13

保育カンファレンス ①子どもの姿を巡る語り合い

- どんな遊びをしていたか、どんなことを楽しんでいたのかを遊び毎に担任が報告する
- 担任の報告に対して、他の参加者もその子について知っている姿や遊びについて話を加え、語り合っていく
- このときには今後の手立てについては話さないようにする
- 全員の子の名前が出るよう、話をしていく



認定こども園 ぽんたい幼稚園

14

保育カンファレンス ②記録

- 記録者の内1名は、担任が事前準備し、①の語り合いで共有した写真ポートフォリオなどを記録用紙に貼り付ける
- また、写真ポートフォリオなどに書かれていないエピソードを付箋に記録し記録用紙に貼り付ける
- 残り1名の記録者は、貼り付けたエピソード（付箋）の対象園児の名前を貼りつけていく



認定こども園 ぽんたい幼稚園

15

保育カンファレンス ③子どもの育ちをみんなで考える

- 記録されている子どもの遊びや姿をもとにその子の育ちについて、参加者全員で語りながら共有する
- 参加者全員で思い思いに気づいたことを話しながら育ちを考えていく
- 「育ちを捉える視点のシール」を貼る



認定こども園 ぽんたい幼稚園

16



保育カンファレンスの手順

- ①子どもの姿を巡る語り合い
- ②記録
- ③子どもの育ちをみんなで考える

認定こども園 ぽんたい幼稚園

17



保育カンファレンスの手順

- ①子どもの姿を巡る語り合い
- ②記録
- ③子どもの育ちをみんなで考える
- ④①～③を子どもの遊びや生活毎に繰り返ししていく

認定こども園 ぽんたい幼稚園

18

保育カンファレンス ⑤次の手立ての検討

- 子どもたちの遊びや姿、育ちなどを手掛かりにして、次の手立てやねらいについて参加者全員で検討する
- 出た意見を付箋に記録者が記録して貼り付けていく
- 誰かが正解を出したり、導いたりするのではなく、みんなでアイデアを出し合っていく



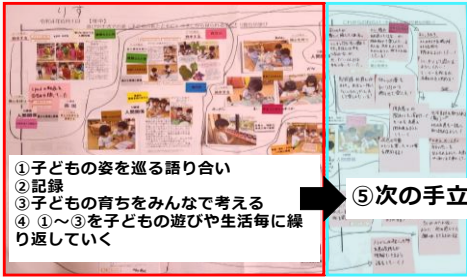
認定こども園 せんだい幼稚園

19



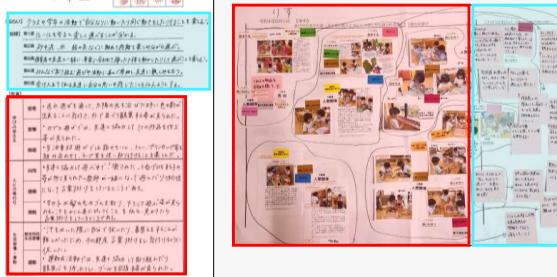
認定こども園 せんだい幼稚園

20



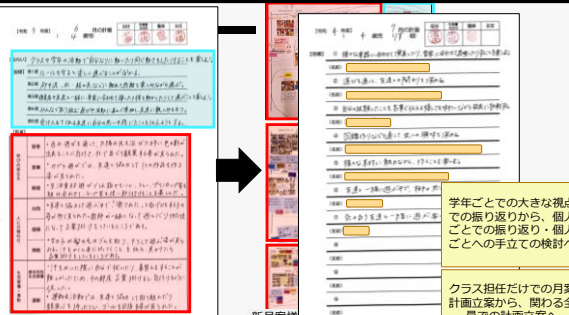
認定こども園 せんだい幼稚園

21



認定こども園 せんだい幼稚園

22



認定こども園 せんだい幼稚園

23

研究の成果 (KJ法)

理解と共有を深め、子どもの新しい姿の発見
子どもの姿を共有し、他職員と情報共有する中で、自身の視点を変える
育ちを考えた保育計画
個々の育ちを意識した保育実践の質の向上
保育記録の質の向上
ファシリテーションスキルの向上



認定こども園 せんだい幼稚園

24

研究の成果

理解と共有を深め、子どもの新しい姿の発見
子どもの姿を共有し、他職員と情報共有する中で、自身の視点を変える

育ちを考えた保育計画

個々の育ちを意識した保育実践の質の向上

保育記録の質の向上

ファシリテーションスキルの向上

・特別な支援を要する子に目が行きがちであったが、一人一人の名前を挙げることで、自分がしっかり見れていなかった子について意識的に見るようになった。

・子どもを肯定的に捉える習慣が付き、伸びている姿をいかしてどのように関わればいいのか考えられるようになった。

・カンファレンスであまり話題に挙がらなかった子がいたら、翌日から意識的にその子を見るようになった。すると、今までは気づかなかったその子の育ちやその子の良さを知ることになった。

認定こども園 ぽんたい幼稚園

25

研究の成果

理解と共有を深め、子どもの新しい姿の発見
子どもの姿を共有し、他職員と情報共有する中で、自身の視点を変える

育ちを考えた保育計画

個々の育ちを意識した保育実践の質の向上

保育記録の質の向上

ファシリテーションスキルの向上

・今の育ちを踏まえた上で、手立てを考えるというプロセスを繰り返すことで、今、楽しんでいることを活かし、発展させて保育計画を立てようという意識が強まった。（進捗を立てやすくなった）

・学年ごとでの月案がクラスごとでの手立てになったため、進捗が立てやすくなった。

・育ちのシールを貼り付ける作業の中から、逆にあまり貼られていない育ちのシールを確認することで、経験してほしいという思いの中で保育計画を立てることができるようになった。

認定こども園 ぽんたい幼稚園

26

研究の成果

理解と共有を深め、子どもの新しい姿の発見
子どもの姿を共有し、他職員と情報共有する中で、自身の視点を変える

育ちを考えた保育計画

個々の育ちを意識した保育実践の質の向上

保育記録の質の向上

ファシリテーションスキルの向上

・全員で立案した計画なので、それぞれの子にあった関わりがしやすくなった。

・その学年に携わる先生が集まって話をする中で、自分があまり関わっていない子の様子もよく知ることができ、その子への関わりもしやすくなった。

・次の手立てを全員で共有しているからこそ、その場にあった関わりができるようになった。

認定こども園 ぽんたい幼稚園

27

研究の成果

理解と共有を深め、子どもの新しい姿の発見
子どもの姿を共有し、他職員と情報共有する中で、自身の視点を変える

育ちを考えた保育計画

個々の育ちを意識した保育実践の質の向上

保育記録の質の向上

ファシリテーションスキルの向上

・普段から何気ない子どもたちの様子もメモを取るようになった。

・カンファレンスを通して遊んでいる様子だけでなく、遊びを通した育ちを捉える意識がつくようになった

・写真ポートフォリオなどの記録も「していること」だけでなく、「育ちを伝えるもの」として保護者の方に伝えたいという意識が強くなった

認定こども園 ぽんたい幼稚園

28

そしてなにより

- ・子どもの様子や育ちを楽しく語れた！
- ・担任の先生以外の先生たちとゆっくり話ができる場がとれたことが良かった！
- ・子どもたちに関する様子を共有することで、いろんな先生が保護者の方に声を掛けやすくなった。
- ・1年間のそれぞれの子どもの遊びや育ちを見ているので、要録を書くときにも活用できそう。

認定こども園 ぽんたい幼稚園

29

研究の成果（まとめ）

理解と共有を深め、子どもの新しい姿の発見

子どもの姿を共有し、他職員と情報共有する中で、自身の視点を変える

育ちを考えた保育計画

個々の育ちを意識した保育実践の質の向上

保育記録の質の向上

ファシリテーションスキルの向上

認定こども園 ぽんたい幼稚園

30

今後の改善点・課題

- 時間をどう確保するか？
- クラス担任が報告するという形で進めてきたが、いろんな保育者が写真や写真ポートフォリオなどを持ち寄ってエピソード共有すると、より深い子ども理解に繋がるのでは。
- 学年全体では共有できているが、学年を超えて子どもの育ちを園全体でどのように共有するか？

認定こども園 せんだい幼稚園

31

参考文献一覧

- ・上野ひろ美（1990）幼児教育の原理——「まなざし」の保育実践。高文堂出版社。
- ・梶谷真司（2018）考えるとはどういうことか。0歳から100歳までの哲学入門。幻冬舎。
- ・川喜田二郎（2017）発想法——創造性開発のために。改版。中央公論社。
- ・佐伯胖（2001）幼児教育へのいざない——円熟した保育者になるために。東京大学出版会。
- ・佐藤雅彰・齊藤英介（2015）子どもと教室の事実から学ぶ——「学びの共同体」の学校改革と省察。ぎょうせい。
- ・佐藤学（2009）教師花伝書。小学館。
- ・マーガレット・カー（大宮勇雄・鈴木左喜子訳）（2013）『保育の場で子どもの学びをアセスメントする——「学びの物語」アプローチの理論と実践』、ひとなる書房。Carr, Margaret（2001）. *Assessment in Early Childhood Settings: Learning Stories*, SAGE Publications of London.
- ・森上史朗（1996）カンファレンスによって保育を開く。発達68。ミネルヴァ書房。

認定こども園 せんだい幼稚園

32

ご清聴ありがとうございました！

ぜひ多くのご意見・アドバイスをお寄せください！

認定こども園 せんだい幼稚園

33